

誰でもわかる広島(芸北)神楽年表

年代	芸北地域(石見地方含)	社会	広島	日本	
年代	神楽	できごと	できごと	社会	
1600年代後半	石見地方の神楽が江の川流域を登り高田郡(現安芸高田市)へ、太田川流域を登り山県郡へ伝わった。		1675(延宝3) 浅野長治が死去	1687(貞享4) 「生類哀れみの令」が出される	
1800年代後半	明治政府により神職神楽演奏禁止令が出され、神職から民間へ神俗交代が行われ民間神楽舞が石見一円に波及した。 1882(明15) 第一次台本改定				
1930年代	この頃の神楽は主に神主が舞う儀式舞が中心で、儀式舞に若干の芸能性を加えた能舞も素朴で余興性は乏しかった。 秋祭りの初夜(ヨゴロ)、神社の境内で舞われていた。	1930(昭5) 広島電気の加計発電所落成 1937(昭12) 美土里町塩瀬と千代田町の道路開通	1930(昭5) 県農会が農村不況対策で大臣・県知事に陳情を行う 1931(昭6) 失業者救済として宮島観光道路を建設する 1935(昭10) 可部線可部-安芸飯室間が開通する	1931(昭6) 満州事変 1933(昭8) 国際連盟を脱退 1937(昭12) 日中戦争始まる	
1940年代	1947(昭22) ・戦後、GHQによる戦後処理の中で、神道色の強い神楽は上演禁止の危機に立たされたが、検閲局が置かれていた福岡まで出掛け、検閲局の認可書もらった。 ・教員であった佐々木順三氏(美土里町)によって、謡曲や能、歌舞伎に登場する神々を中心とした新作神楽台本が発表され、単純だった舞に演劇性が加えられ、またたく間に広まった。 ・初の神楽大会「芸北選抜神楽競演大会」が加計町で開催された。 1949(昭24) ・「第1回芸石神楽競演大会」が千代田町で開催された。	戦後 ・農地改革が行われ、多くの自作農家が生れた。 ・戦時からの解放感のあらわれから、各村で青年たちによる演芸会が開かれるようになった。出し物は任侠ものが人気を博していた。演芸会ブームによって、戦時、死滅の手前であった郷土芸能が復活した。盆踊り、囃田、獅子舞、神楽などがつぎつぎと復活の芽をふいた。	1945(昭20) 広島市に原爆が投下される 1947(昭22) 第1回知事・市町村選挙が実施される 1949(昭24) 「広島平和都市建設基本法」が成立 国立広島大学が設置される	1941(昭16) 太平洋戦争始まる 1945(昭20) 戦争終結 1946(昭21) 日本国憲法公布	
1950年代	1954(昭29) 鐘撞(根元神楽団)、剣舞(山根神楽団)、神降し・八岐大蛇・天の岩戸(有田神楽団)が県無形民俗文化財に指定される 1955(昭30) 神迎え(青神楽団)、神降し(桑田天使神楽団)が広島県無形民俗文化財に指定される	1954(昭29) 千代田町が誕生 国鉄可部線、加計まで開通 1955(昭30) 大朝町が誕生 1956(昭31) 美土里町が誕生 高宮町が誕生 芸北町が誕生 豊平町が誕生 国民本郷線が加計まで開通し、筒賀駅(現・田ノ尻駅)が開設された。	1950(昭25) 広島カープ球団の結成 1951(昭26) 第6回国民体育大会 1952(昭27) RCCがラジオ放送を開始 1957(昭32) 広島市民球場の完工式・天燈式が挙行	1950(昭25) 朝鮮戦争が始まる 1952(昭26) 講和条約が発効し、日本は独立国となる 1953(昭28) NHKがテレビ放送を開始 町村合併促進法が制定 1958(昭33) こだま号の運転開始	
1960年代	1960(昭35) 伊賀和志神楽団、県の無形民俗文化財に指定される	1963(昭38) 「三八(さんばち)豪雪」 1964(昭39) 高宮町商工会誕生	1960(昭35) 人口約10万7千人兼業農家の増加 ・日稼・出稼ぎに出かける農家の増加 ・激しい人口流失「拳家離村」という言葉も生れた。 ・伝統行事を継承・維持していくことが困難に ・政府による減反政策が行われる	1960(昭35) 広島県の人口約218万4千人 広島市の人口約58万2千人	
1970年代	1971(昭46) 広島市中区の体育館で初の神楽競演大会「広島県神楽競演大会」が開催された(広島山県都友会主催)。 1974(昭49) ～女性団員の登場がみられるようになった。 1979(昭54) 原田、佐々木、羽佐竹(安芸高田市)が県無形民俗文化財に指定された。	1970(昭45) 豊平町、過疎地域の指定を受ける 「原田はやし田」国の選択民俗芸能に指定、万国博覧会にも出場する。 町の過疎地域振興計画を策定 1972(昭47) 「四七(よんなな)豪雨」、江の川が氾濫し人口減少に拍車 「千代田工業団地造成調査報告書」が出される 1979(昭54) 中国自動車道千代田～三次間の開通 高田インターチェンジの供用開始	1970(昭45) 人口約7万8千人 ・「機械化貧乏」の農業経営	1970(昭45) 広島県の人口約243万6千人 広島市の人口約79万2千人	1970(昭45) 大阪万博 1973(昭48) オイルショックが起こる 1974(昭49) 国土利用計画法が公布 1978(昭53) 成田空港が開港
1980年代	1982(昭57) 来女木神楽団、県無形民俗文化財に指定される 1986(昭61) 初の豊平町無形民俗文化財、神楽8団体を指定	1980(昭55) 第1回高宮町民文化祭開催 1982(昭57) 陰陽広域協議会の企業誘致 1984(昭59) 千代田最大の店舗「サンクス」が開店	1980(昭55) 人口約7万3千人 ・「減反・転作と預託水田(中国新聞54.12.3) 増える預託水田どう活用、休耕で落ちる地力 ・「壬生大花田植えと飾り牛(中国新聞56.5.26)」 問題山積み壬生大花田植 家畜商を頼って細々、調教技術者も減る一方、姿消した主役の役牛 ・中国自動車道開通後、千代田町で工業団地化が進んだ	1980(昭55) 広島市が政令指定都市となる 1983(昭58) 中国自動車道の全通 1985(昭60) 広島市が人口100万人を超える 1989(昭64) 海と島の博覧会	
1990年代	1993(平5) 初の劇場ホールでの神楽大会「SUPER KAGURA 神々の詩」 1994(平6) 第1回高宮神楽共演大会 1998(平10) 神楽門前湯治村がオープン(安芸高田市美土里町) 1999(平11) 「第1回ひろしま神楽グランプリ」(安芸高田市美土里町神楽ドーム)	1990(平2) 上根バイパス工事開通 高宮工業団地にサニクリーン広島高宮工場が進出第1号企業として立地された。 広島ニュージューランド村がオープン 1994(平6) ふれあい公園が「道の駅豊平どんぐり村」として登録される 1996(平8) 豊平町総合体育館(とよひらウイング)完成 1997(平9) 原田はやし田「安芸のはやし田」として国の重要無形民俗文化財指定	1990(平2) 人口約7万人 ・千代田町開発ラッシュ(横断道、下水道、病院、企業立地等)	1990年 広島県の人口285万人 広島市の人口108万6千人	1992(平4) 通称「お祭り法」の制定 1995(平7) 阪神淡路大震災 地下鉄サリン事件 1996(平8) アトランタオリンピックが開催される
2000年代	2001(平13) 「第1回春選抜 吉和神楽競演大会」(廿日市市吉和) 2002(平14) 競演大会の数を共演大会が上回る 2003(平15) ロシアサンクトペテルブルグ市建都300年記念祭において神楽上演(中川戸・山王・東山・八重西神楽団合同) 2004(平16) Theひろしま神楽in広島城(広島県大型観光キャンペーン)	2004(平16) 安芸高田市、安芸太田町が誕生 2005(平17) 北広島町が誕生	2000(平12) 人口約6万5千人	2000年(平12) 広島県の人口287万9千人 広島市の人口112万6千人	2005(平17) 人口の自然減が始まる

参考文献 1. 赤木昌彦他 「図説広島市の歴史」 2001 郷土出版社 2. 秋田隆幸他 「図説備北・安芸吉田の歴史」 2000 郷土出版社 3. 篠原一 「父が子におくる1億人の昭和史」 1978 毎日新聞社 4. 広島県 「広島県史」 1984 広島県 5. 佐々木順三他 「美土里町の歴史と伝説」 1972 美土里町 6. 千代田町役場 「千代田町史民俗編」 2000 千代田町役場 7. 千代田町役場 【千代田町史近代現代資料編】 1998 千代田町役場